

夜勤とエレガンス

北海道大学医師会
市立札幌病院

す どう さと こ
首藤 聡子

当代きっての最上級にエレガントな女性といえは9月に逝去されたエリザベス女王を挙げる方も多いのではないでしょうか。ニュースやネットで配信される写真や動画で、若かりし頃の輝くような美貌に見惚れる一方、お年を召してもその時々において圧倒的な品格と美しさを放っておられたことを再認識したと同時に、最近出会ったある患者さんのことを思い起こしました。

その方はご高齢でしたが初診時、背筋を伸ばし潇洒なファッションで診察室に入ってこられたことを覚えています。その後入院されることになりましたが、知性・教養そしてユーモアを交えたお話ぶりとその佇まいから、私たちはその方のことを“女史”と呼んでいました。

ある夜病棟で残務をしていたところ、女史が先生を呼んでいます、とのことで、たまたま勤務していた女史のお気に入りのベテラン看護師さんと一緒に訪室しました。女史は、教育・科学・エネルギー問題・環境問題など幅広い話題についてご自分の見解と将来への危機感をお話しされ、最後に彼女の座右の銘である、「凛々しく、シャープに、そしてエレガントに！」を三人で唱和したところで消灯となり私たちは退室しました。これが彼女の遺言になってしまいました。

現在の勤務先には産科に総合周産期母子医療センターが併設されており、私たち産婦人科医は必ず日当直をしなくてはなりません。現在のマンパワーではたとえ大学の医局から出張医をもらっても週1回の当直は避けられず、昨年度までは当直明けは17:15までの勤務が義務付けられていました。医師の働き方改革として、2024年4月1日から勤務医にも時間外労働の罰則付き上限規制が適用されることを受け、今年度から当院でも夜勤体制を開始しましたが、まだ勤務時間の短縮という成果は得られていません。この夜勤に、日々の外来・手術がじわじわと私の体力と気力を蝕んでいて、近頃はさすがに老いを自覚するようになりました。コロナ禍でもあり、以前のようにお洒落をしてショッピングや食事に出る機会もすっかりなくなり、「疲れちゃった、今日も手術頑張ったしご褒美ね！」とUberEatsで高カロリーな食事をデリバリーしてハイボールを飲みまくれば体重が増えるのも当たり前です。

私たち世代の女性産婦人科医は20世紀にふんわり残存していたジェンダー問題の影響もあり、チャン

スを得るために根性と体力気力を振り絞ってがむしゃらに仕事をしていたように思います。最近では女性医師も増え続け、男女差なくチャンスが与えられ彼女たちの希望に沿い、その能力を開花させていくのを見て頼もしさを感じる反面、うらやましさや妬ましさを覚えることもあります。

さてここで問いますが、エレガンスって何でしょう。辞書によると上品な美しさ、優雅、気品、典雅、という意味だそうです。字面だけをとらえると、エレガントに生きるためには時間やお金、気持ちにゆとりがないと難しそうに思いますよね。でも、件の女史はお若いころとても苦勞された中でもエレガンスを失わずにおられたし、殿上人ではありますがエリザベス女王も戦争を含む国難やご家庭の不幸を経ながら常に美しくあり続けたわけで、エレガンスを保つのは心意気なのではないかと思うに至りました。

私も外科系医師として人のお役に立てるのもあと数年と思います。最近ロボット手術を始めたので、少しばかり医師生命が延長したかもしれませんが、医師の働き方改革適用まであと1年半、先人に習いこれからはエレガントに生きる練習も始めようと思いました。まずは乱暴な言葉遣いを改め、人を妬まず高圧的パワハラ的態度と過量の飲酒を控えるところから努力していきたいと思います。

勝手なことばかりを書き連ねてしまいました。最後にこんな私ですが、皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。コロナ禍が明けたら飲み誘ってください、あれ、節酒宣言はどこに行ったの・・・？